

創作投稿コーナー しよしよ

創作投稿コーナー しよしよ

ステンドグラス

一ノ関 茂夫 (S44E)



薔薇文様パネル

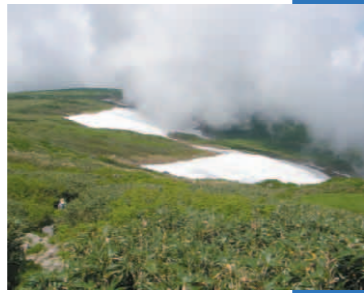
写真短歌

嵯峨 良平 (S43E)

積雪の箱根登れば
履くアイゼンで
富士を見て
足もと軽し

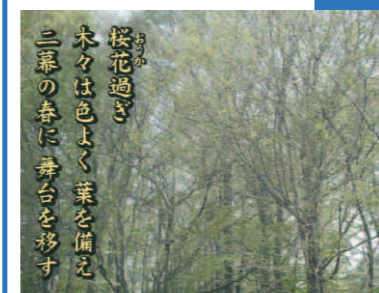
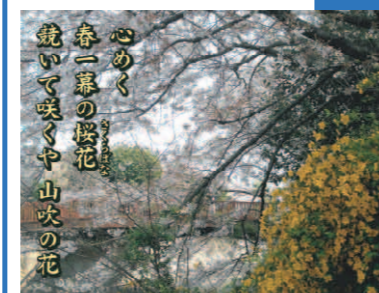
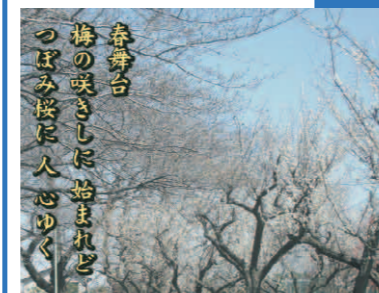


きすげ咲く
月山登山に
雪渓あり
かくも涼しく
しばし歩休む



写真短歌・春舞台六景

松木 一美 (S48M)



短歌

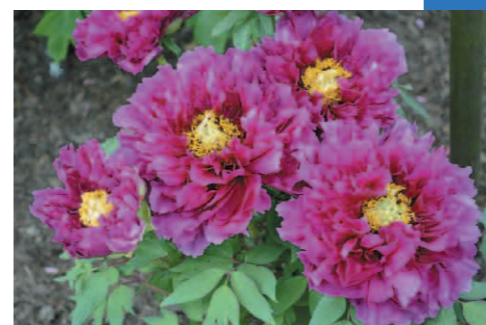
下總 勉 (S47A)

秋田のチームが関東会場で試合があり、応援に出かけたが結果はボロ負けだった。が、秋田からのサポーターの生秋田弁を聞くことが出来て負け試合のストレスが軽くなった。

劣勢で 完全アウェーの 負け試合 秋田言葉に 胸がやすまる

写真

三平 俊悦 (S39A)



鶴岡八幡宮の牡丹庭園で (独り言)

数々の方とのゴルフプレー体験から、ゴルフというスポーツは不思議な魅力を持っている、上手は上手、下手は下手なりに一度この道に踏み込むと終生の伴となり別れられない、ゴルフに批判的な人ほど、深くのめり込んでしまい滑稽である。ゴルフは麻薬同様である。

写真俳句・四連作

戸嶋 禮助 (S36E)

山路にて 足元照らすや 岩鏡



古き代の 勇者称えし 山桜



包葉より 華やぐ花の色香かな



寒空に ナマハゲ吠える 銀座かな



写真俳句

赤間 政志 (S53E)

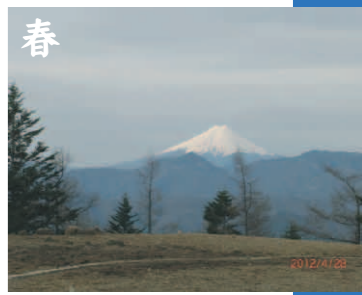
雪解けの 水を叩いて 湯滝かな



写真俳句・四季六連作

加賀谷 健治 (S36E)

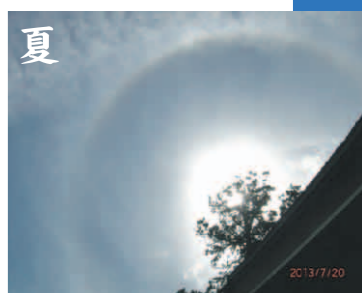
早春に 富嶽峰えし 雲取山



唐木田に 超然と咲く 簾花



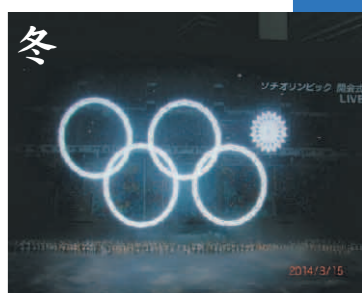
豪雨去り 日輪輝く 羽黒山



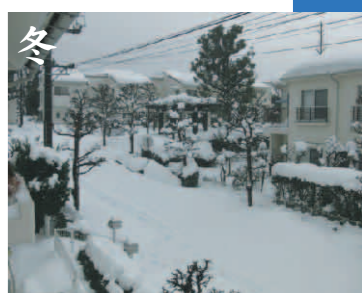
多摩の秋 最も紅い 花水木



冬五輪 開かぬ一輪 ウクライナ



豪雪や 温暖化でも 東京も



エッセイ

鈴木 彦之 (S31M)

車内の出来事

それは3月初旬のまだ寒い日曜日だった。午前10時過ぎ、多摩センター駅でモノレールに乗って発車を待っていた。座席がまだ空いていたので、そこへ駆け込んできた中年のおじさんが私の左隣の席に座り、乗車前に買ったと思われるコンビニのレジ袋を足元に置いた。間もなく電車が動き出し、前かがみになって袋の中から100g位の青い容器のブルガリアヨーグルトを1個取り出してフタをあげ、フタの裏についたものを子供のようにはぺろぺろ舐め、指についた親指と人差し指をしゃぶって、おもむろに透明なプラスチックの小さじで食べ始めた。

1個をすすりおえて、また袋から今度はオレンジ色の容器に入ったヨーグルトを取り出し同じ小さじで2個目を食べた。朝食抜きだったかなと勝手に想像していたらこんどは3個目のまた青い容器のヨーグルトを取り出し食べ始めた。これもあっさり食べ終えた。

向かいの席に座っていた人達も気がつき始めたが見て見ないふりをしていた。まさか、これで終りだろうと思っていたら4個目を同じ調子で舐めとすすりを繰り返して、やれやれこれでやっと終わったと思った。

袋の中は空になった容器がいっぱいあるのにまたゴソゴソ探し始めたので、ええッ、ウソウソと、びっくりしていたら5個目を取り出した。探す時間もだんだん長くなってきた。袋の中に何個あるのか、いささか気になってきた。

高幡不動駅を過ぎてはまだ続けている。

ひと駅ごとに1個のペースのようだが、どこまで乗って行くのか、隣で指折り数えているのもあやしくなってきた。マジックを見ているようで、次から次へと取り出しては食べ続けている。駅もどんどん過ぎて行く。

いつ終わるか？今でしょ！とうとうタイミング良く10個食べ終えた時が発車してから30分も過ぎた立川南駅だった。

どんな胃袋をしているのか。見た目は普通のおじさんだが、食べていた人が変なのか、それを見ていて数を数えていた自分が変なのか、どちらも同じ下車駅だったようで一緒に降りた。

彼の手にはヨーグルトの空の容器の入った軽いごみ袋が残り、そのままごみに消えて行った。

◆しよしよへの投稿先

- 嵯峨 良平 saga_ryohei@ybb.ne.jp
- 赤間 政志 masashi.akama.rh@hitachi.com

右記へE-mailで随時投稿してください。